

1 部門目標

収容不能例を入院依頼の20%以下にする。

2 業務体制・スタッフ

医師のスタッフは、岩松利至、大塚春美、今井郁子、鈴木康浩、大橋美香の5名です。臨床心理士は藤嶋加奈です。後期研修医としては、東京女子医大本院より大川拓也（2019年1月～6月）、町田修（2019年7月～12月）、橋詰拓摩（2019年10月～2020年3月）の3名、院内小児科より近藤丈太（2019年3月～8月）、近藤優帆（2019年4月～9月）、原木悠（2019年9月～2020年2月）、山口亮（2019年10月～2020年3月）の4名が研修を行いました。院内初期研修医としては、大庭千尋（2019年2月～3月）、原木晶子（2019年6月）の2名が研修を行いました。

3 業務実績

1) 持続陽圧呼吸管理例の増加

2019年1月～12月の入院数は250名で、例年よりやや減少していました。うち院内出生は174名で全体のおよそ70%であり、前年とほぼ同じでした。出生体重別では、1000g未満が12名で前年とほぼ同数、1000～1499gは19名で前年より9名減でした。死亡は、1000g未満の1名と、2500g以上の2名の計3名であり、死亡率は1.2%でした。

気管内挿管での人工呼吸管理症例は32名でほぼ前年と同数でしたが、持続陽圧呼吸管理症例は117名であり前年より21名増加しました。これは、新生児の人工呼吸管理方針が、以前であれば挿管管理となっていた呼吸障害症例に対して、まず持続陽圧呼吸管理で対応するようになってきているためであり、この傾向は今後も続くと思われます。これに伴い持続陽圧呼吸管理専用呼吸器が不足することが多く、その都度レンタルで対応するという状況が続いております。

また2019年も、東京女子医大東医療センター新生児科長谷川久弥教授の往診による気管支鏡検査が9回行われました。

2) 入院依頼（母体搬送依頼を含む）の83.3%に対応

院外からの入院依頼（産科への母体搬送依頼を含む）は204件ありました。うち、新生児入院の76件（直接入院73件、往診での新生児救急搬送入院3件）と、母体搬送等での対応94件の、合わせて170件（依頼の83.3%）に対応できました。

2019年 入院状況

作成： 2020/1/31

1) 総入院数 250 名

*院内 174 名 69.6%

*院内にて出生後、NICUもしくはGCUへ入院(再入院 2名含)

出生体重	入院数	死亡数
~999g	12	1
1000~1499g	19	0
1500~2499g	131	0
2500g~	88	2
合計	250	3

在胎	入院数	死亡数
22~24週	0	0
25~27週	10	0
28~32週	28	1
33~36週	95	0
37週~	116	2
不明(未受診)	1	0
合計	250	3

3)2018年 前年比

2018年 (前年比)	総入院数	270 名 (92.6%)
	院内	198 名 (87.9%)

当院受診(非紹介)	16	*初診時より当院にてフォロー
母体搬送	63	
産科外来紹介	91	
未受診	0	
合計	170	

	使用人数	日数	平均/日数	平均/入院
人工呼吸器管理(IMV)	32	634	19.8日*①	12.8%
CPAP,DPAP	117	2012	17.2日*①	46.8%
サーファクタント	34			13.6%

*①(日数/使用人数)

*②(使用人数/総入院数)

2) 入院依頼(院外より) 204 件

*院外での出生児、出生後に当院NICUもしくはGCUへ入院

2018年 (前年比)	入院依頼	255 件	80.0%
----------------	------	-------	-------

①入院 76 件

37.3% (入院/入院依頼)

2018年 (前年比)	入院	70 名	(108.6%)
	入院/入院依頼	27%	+ 10.1%

救急車	73
自家用車	0
新生児救急搬送	3
分娩立会+搬送	0
三角搬送	0
合計	76

*出産施設の医師または看護師助産師が付き添って救急車にて当NICUに入院した症例

*出産施設の医師または看護師助産師が付き添って自家用車にて当NICUに入院した症例

*出産施設ですでに出生している重篤な児を当院新生児医師と看護師が救急車で迎えに行きNICUに搬送した症例

*新生児医師と看護師が救急車で出産施設に向き、分娩に立ち会ったうえでNICUに搬送した症例

*医師が救急車等で依頼元医療施設へ行き、新生児と同乗してほかの医療施設へ搬送した症例

②他科収容・相談など 94 件

46.1% (他科収容・相談等/入院依頼)

2018年 (前年比)	他科収容・相談など	133 名	(70.7%)
	他科収容・相談等/入院依頼	52.1%	-6.0%

産科へ母体搬送	76
相談のみ	14
入院予約	3
当院小児科へ入院	1
	0

③入院不能 34 件

6.9% (当院満床/入院依頼)

9.8% (その他/入院依頼)

2018年 (前年比)	入院不能	52 名	(65.4%)
	当院満床/入院依頼	8.2%	
	その他/入院依頼	12.2%	

他院収容(当院満床)	14
(産科)	1
(新生児科)	12
(両科共に満床)	1
その他	20
(レスピレーター不足)	2
(重症患者処置中)	12
(計画停電)	1
(外科呼吸器外臓疾患の為)	3
(重症児多処置中)	7
(近医緊急出産対応)	1
(外科呼吸器外臓疾患)	3
(出産要緊急)	1

千葉市立 海浜病院 新生児科

4 1年間の総括

- 2019年も春から MRSA 保菌者が増加した期間が長期に渡り、結果として感染症の判断で治療を要する症例も認められました。
- 本年度も当院小児科および東京女子医科大学本院小児科から、複数名の後期研修医の安定した派遣を受けることができ、診療体制が充実しました。
- 依頼の 83.3%に対応でき、前年よりも対応不能率は低下しました。
- 本年度も廣瀬陽介先生に加えて、当科での研修を終了した当院小児科の高居宏武、近藤丈太先生に、当科の当直業務をお手伝いいただくことができました。
- 千葉県こども病院心臓血管外科からの往診（青木満先生、萩野生男先生、伊藤貴弘先生および梅津健太郎先生）で、6月と11月に動脈管結紮術が行われました。
- 18トリソミーの心室中隔欠損症例に対して、日本赤十字社医療センターに依頼して、肺動脈絞扼術を施行いたしました。
- 気道狭窄症3例に対して、気管切開術を行いました。
- 1年以上の長期入院者が、国立病院機構下志津病院ポスト NICU へ転院となりました。

5 今後の目標

今後も入院依頼の収納不能 20%以下目標が継続できるよう医師の確保・育成に力を注ぎたいと考えています。